

No. (28) 令和3年度 地域と共働した博物館創造活動支援事業成果報告書

事業名称	野尻湖周辺を活性化する博物館活動事業		
実行委員会	野尻湖周辺活性化事業実行委員会		
中核館	野尻湖ナウマンゾウ博物館		
	住所	〒389-1303 長野県上水内郡信濃町大字野尻 287-5	
	TEL	026-258-2090	FAX 258-3551
	ホームページ	http://nojiriko-museum.com/	
構成団体	信濃町教育委員会、環境省戸隠自然保護官事務所、野尻区、野尻湖発掘調査団、野尻湖と親しむプロジェクトチーム、表参道の会		
事業開始時点の課題分析	<p>野尻湖ナウマンゾウ博物館は野尻湖で1962年から続くナウマンゾウ化石などの発掘調査の出土品やその調査研究をおこなう施設として1984年に開館したが、野尻湖を訪れる観光客の減少とともに博物館の入館者数も減少する状況が続いたことから、開館から30年が経過した際に「地域と協働する野尻湖ナウマンゾウ博物館構想」を策定した。その中では持続可能な博物館にするためには地域住民の協力を得ることが不可欠であり、住民に博物館活動に参加してもらい仕組みづくりが重要と位置付けられたため、氷河時代案内人の養成と案内人にかかわってもらい事業を実施し、地域と共働する活動をおこなってきた。しかし、コロナ禍により活動が停滞したこともあり、この活動を再構築する必要が生じたため、この事業をもとに活動の活性化をねらった。</p>		
事業目的	<p>平成27年度に策定された「地域と協働する野尻湖ナウマンゾウ博物館構想」では次の3つの重点課題が示された。①博物館そのものの魅力化、②地域協働の気運づくり、③周辺地域への波及効果。この課題に取り組むため、特に地域住民との共働と地域の活性化に結び付く事業の実施を目的とした。</p>		
事業概要	<p>1. 地域と共働する博物館人材育成事業では氷河時代案内人（地域学芸員）新規養成と、新たな取り組みとして小中学生を対象としたジュニア氷河時代案内人（ジュニア学芸員）養成をおこない、新たなサポーターを獲得することができた。2. アートでナウマンゾウをアピール事業では店舗のシャッターにナウマンゾウなどの絵を描くワークショップを実施し、ナウマンゾウの化石が出土する湖を印象づける絵を完成させることができた。3. 収蔵資料データ活用事業では化石の3D画像を含むデータベースをホームページに掲載することができた。</p>		
実施項目・実施体系	<p>1. 地域と共働する博物館人材育成事業 (1) 氷河時代案内人（地域学芸員）新規養成事業 (2) ジュニア氷河時代案内人（ジュニア学芸員）養成事業 (3) 氷河時代案内人スキルアップ事業 2. アートでナウマンゾウをアピール事業 (1) まちなかにナウマンゾウを描く体験プログラム開発事業 3. 収蔵資料データ活用事業 (1) 収蔵資料の3D画像入りデータベース開発事業</p>		
実施後の成果・効果等	<p>1. 地域と共働する博物館人材育成事業では、氷河時代案内人（地域学芸員）9名、ジュニア氷河時代案内人（ジュニア学芸員）3名を新たに認定し、博物館のサポーターの増員を図ることができた。またスキルアップ事業では、すでに認定されていた氷河時代案内人のスキルアップを図ることができた。2. アートでナウマンゾウをアピール事業では店舗のシャッターにナウマンゾウなどの絵を、小中学生を中心に楽しく描いてもらい、観光地としての活気を印象付けるような絵を完成させることができた。3. 収蔵資料データ活用事業ではナウマンゾウ化石などの3D画像入りデータベースをホームページに公開することができた。画像の撮影は氷河時代案内人におこなってもらい、人材の活用を図ることも同時におこなうことができた。</p> <p>全体を通して、地域との共働による持続可能な博物館活動という当初の目的は概ね実行でき、共働の意識が醸成できたものと思われる</p>		

【事業実績】

事業名：野尻湖周辺を活性化する博物館活動事業

野尻湖ナウマンゾウ博物館を中核館として、住民との共働によって、地域の活性化に結び付く事業をおこなった。

1. 地域と共働する博物館人材育成事業

(1) では氷河時代案内人（地域学芸員）の新規養成をおこない、9名を新たに認定した。これにより氷河時代案内人は41名に増加した。また、(2) で小中学生を対象としたジュニア氷河時代案内人（ジュニア学芸員）の養成をおこない、初めて3名を認定した。(3) ではすでに氷河時代案内人になっている方を対象に、やや専門的な講座や講演会を受講してもらい、それぞれのスキルアップにつなげてもらった。

(1) 氷河時代案内人（地域学芸員）新規養成事業

- ①養成講座の実施 2021年6月19日（土）受講者9名
- ②講演会の実施 2021年6月19日（土）受講者20名



①養成講座1 哺乳類化石 ②養成講座2 地質 ③養成講演会1 宮島氏講演 ④養成講演会2 質疑応答

参加者の声 「野尻湖の発掘のことは知っていたが、ナウマンゾウやそれを狩りしていた人がいて、日本の歴史の中でもとても重要な場所だということを知ることができて勉強になった。糸魚川のジオパークのお話は興味深く、とても参考になった」

(2) ジュニア氷河時代案内人（ジュニア学芸員）養成事業

- ①養成講座の実施 2021年7月31日（土）受講者3名
- ②案内ツアーの実施 2021年8月8日（日）



①養成講座1 化石スケッチ ②養成講座2 火山灰観察 ③修了証の授与 ④案内ツアー

(3) 氷河時代案内人スキルアップ事業

- ①ステップアップ講座の実施 2021年5月24日（月）、6月7日（月）、9月27日（月）
- ②ステップアップ講演会の実施 2021年10月24日（日）受講者13名



①講座1 哺乳類化石 ②講座2 石器と人類 ③講座3 地質と古環境 ④講演会（オンライン）

2. アートでナウマンゾウをアピール事業

店舗のシャッターに絵を描くワークショップでは小中学生を中心に氷河時代に野尻湖にいたナウマンゾウなどの動物を考えながら描いてもらうことができた。完成した絵は観光客にナウマンゾウなどの化石の産出地であることを印象付けるものとなり、観光地として十分にアピールできるものに仕上がった。

(1) まちなかにナウマンゾウを描く体験プログラム開発事業

- ①図案決定会議 2021年5月25日（火）
- ②国立公園内許可申請手続き
- ③下絵作成 2021年6月23日（水）～24日（木）
- ④シャッターに絵を描くワークショップ実施 2021年6月26日（土）参加者20名



① 図案決定会議



② 下絵作成



③ ワークショップ 午前



④ ワークショップ 午後



⑤ 完成した絵

参加者の声 「大きなシャッターに描くことができ楽しかった」「ヘラジカの首のところがどんどんふくらんでしまってむずかしかった」「カワウが空を飛んでいるのを描いた。脚立にのぼって描いたので、ちょっと怖かったけど、楽しかった。カワウの化石が野尻湖で見ついていることは知らなかった」「自分の家のシャッターにも絵を描きたいと思っていて、それで参加しました。やり方がとても参考になりました。ありがとうございました」

3. 収蔵資料データ活用事業

(1) 収蔵資料の3D画像入りデータベース開発事業

博物館の収蔵品の内、長野県の天然記念物に指定されている化石の3D画像入りのデータベースを作成し、ホームページに公開した。公開した3D画像は9点。写真の撮り方や枚数など3D化の方法を業者と研究を重ねた。3D画像の作成には1点につき600枚程度の写真撮影が必要で、氷河時代案内人にその撮影してもらい、人材活用の実践ができた。また、この作業を継続しておこなう見通しをつけることができた。

① 3D化に向けた写真撮影等の講習会の実施 2021年11月30日(火)

② 写真撮影 2022年1月20日、2月3日、9日、16日、17日、22日、24日、25日、26日、28日

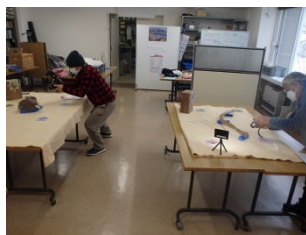
③ 3Dデータ化

④ データベースのデータ入力 2022年2月16日、17日

⑤ ホームページでの公開 2022年2月21日(月)



① 写真撮影等の講習会



② 化石写真撮影のようす1



③ 化石写真撮影のようす2



④ 化石写真撮影のようす3



① ホームページトップ



② データベース選択画面



③ 化石の個別データ画面



④ 3D画像

参加者の声 「写真の撮り方がコツをつかむまで難しかった。どうしても枚数が少なくなってしまう場所ができてしまうので、途中で画像確認してもらおうと安心して作業ができる」「化石の穴があいている部分はライトをあててやらないとうまく映らないことがわかった。いくつか経験を重ねればうまくなっていくと思う」「いろいろな角度で写真を撮らないといけないので、腰を低くしたり、体をねじったりしながら撮影することになり、結構体力がいる仕事だと感じた」